

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	からだの構造	講師	氏名	大谷晶子	開講年次	1 年次 前期	単位・時間	1 単位 15時間
			所属					
			実務経験	非常勤講師 教諭 (理科)				
科目のねらい	看護師といった人間の健康に関わる職種では、当然のことながら、人間の体に関する知識が必要とされる。ここでは人体の正常な構造(かたち)について学ぶ。同じ働きをもつ人体の各部分をまとめて機能別に学び、系統解剖学を理解する。							
到達目標								
知識・技術	1. 解剖学的用語を説明することができる。 2. 人体の各器官系統の構造が説明できる。							
思考判断・表現	1. からだの構造を理解し、人体模型を作成することができる。							
主体的学習態度	1. グループワークにおいて相手の意見を受け止めながら活発な意見交換ができる。 2. 創意工夫をしながら人体模型を作成することができる。							
科目評価	定期(筆記)試験 100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版) 看護に必要な漢字で覚える解剖ドリル(ブチナース)							
参考文献	人体の構造と機能(医師薬出版社) 人体解剖ビジュアルーからだの仕組みと病気ー(サイオ出版)							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	1. 解剖学的用語 1) 解剖学的正常位 2) 方向 3) 面と断面 4) 人体の部位を示す用語 5) 人体内部の腔所 6) 器官と11種の器官系	○			大谷晶子	からだの機能 日常生活からみるからだ 呼吸・循環・血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 体の調節と神経の病を見る 運動することと感覚の病を見る 体を守ることの病を見る こどもの病を見る	グループワークにて人体模型を作成する。	
2	2. おおまかな身体のしくみ I 1) 全身の臓器 2) 食べてから便になるまでの流れ 3) 息を吸って吐く呼吸の流れ 4) 全身を駆け巡る血液の流れ 5) 尿が作られて出るまで 6) 全身の骨の名称	○					単元別試験：解剖学的用語	
3	2. おおまかな身体のしくみ II 1) 全身の骨の名称 2) 全身の筋肉の名称 3) 脳と神経の名称 4) 目や耳や鼻のつくり 5) 女性の身体特有のつくり 6) 男性の身体特有の作り 7) ホルモンが作られる場所	○					単元別試験：おおまかな身体のしくみ I	
4	3. それぞれの部位の細かい構造 I 1) 胃と肝臓・胆嚢・膵臓 2) 呼吸器管全体 3) 気管・気管支・肺胞 4) 動脈	○					単元別試験：おおまかな身体のしくみ II	
5	3. それぞれの部位の細かい構造 II 1) 静脈 2) 心臓 3) 腎系統 4) 腎臓の中の構造	○					単元別試験：それぞれの部位の細かい構造 I	
6	3. それぞれの部位の細かい構造 III 1) 全身の骨 2) 全身の筋肉の名称 3) 脳 4) 脊髄神経 5) 感覚器(眼・耳・鼻)	○					単元別試験：それぞれの部位の細かい構造 II	
7	3. それぞれの部位の細かい構造 IV 1) 女性生殖器 2) 乳房 3) 男性生殖器 4) 全身のリンパ管 5) 内分泌腺	○					単元別試験：それぞれの細かい構造 III	
8	単元別試験と解説 人体模型の作成	○					単元別試験：それぞれの細かい構造 IV	

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	からだの機能	講師	氏名	大谷晶子	開講年次	1年次 前期	単位・時間	2単位 60時間
			所属					
			実務経験	非常勤講師・教諭 (理科)				
科目の ねらい	看護は「実践の科学」であるといわれる。看護の中で重要な部分を占める日常生活行動の援助を考えると、解剖生理学の知識は土台として活用できる。からだの構造で学習した人体の構成要素（細胞、組織、気管、器官系）は固有の働きをもつ。ここでは、各器官系の正常な機能（働き）について学ぶ。							
到達目標								
知識・技術	1. 細胞と組織、皮膚と粘膜、血液、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、生殖器系、骨格系、筋系、神経系、感覚系、免疫系それぞれの機能（働き）を説明できる。 2. それぞれの機能（働き）の関連性・影響度を説明できる。							
思考 判断・表現	1. 各機能の連携がとれなくなった場合に起こりうる身体問題について、様々な視点から検討し予測できる。 2. からだに機能（働き）が、からだの構造と密接な関係にあることを指摘できる。 3. 日常生活動作の視点から、からだの機能（働き）を組み立てることができる。							
主体的学習 態度	1. 人体に興味を持ち、自ら質問ができる。 2. 『からだの構造』を復習し、講義に臨むことができる。							
科目評価	定期（筆記）試験 100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学（メディカ出版）							
参考文献	人体の構造と機能（医師薬出版社） 人体解剖ビジュアルからだの仕組みと病気ー（サイオ出版）							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	1. ホメオスタシス 2. フォードバック機構 3. 体を構成するしくみ 1) 細胞 2) 人体を構成する4種類の組織	○			大谷 晶子	からだの構造 日常生活からみるからだ 呼吸・循環・血液の病をみる 消化及び排泄の病をみる 体の調節と神経の病をみる 運動することと感覚の病をみる 体を守ることの病をみる	※からだの構造の復習をして講義に臨むこと	
2	4. 体や臓器を守るしくみ 1) 皮膚と膜 2) 皮膚 3) 体熱産生と体温	○						
3	単元別試験と解説	○						
4	5. 物質を運搬するしくみ 1) 血液の機能と成分 2) 血球とその機能 3) 血液型と輸血 4) 血液の発生	○						単元別試験 血液循環、心臓の構造、全身のリンパ管
5	6. 体のすみずみまで血液を送るしくみ 1) 心臓の機能 2) 血管の形態・機能 3) 胎児循環 4) 心臓、血管の成長と老化 5) リンパ系	○						単元別試験 肺、気管、気管支、肺動脈の構造
6		○						
7	7. 酸素を取り入れて二酸化炭素を排出するしくみ 1) 呼吸器系の機能 2) 呼吸のプロセス 3) 呼吸の調節 4) 呼吸器系の成長と老化	○						単元別試験 胃と肝臓、胆嚢、膵臓の構造
8		○						
9	単元別試験と解説	○						
10	8. 食物を摂取して消化・吸収し排泄するしくみ 1) 食欲 2) 咀嚼 (1) 口腔の構造と機能 (2) 嚥	○						単元別試験 腎系統、腎臓の中の構造
11	3) 嚥下 (1) 咽頭、食道の構造と機能 4) 消化・吸収 (1) 胃、小腸、肝臓、胆嚢、膵臓の機能 5) 排泄 (1) 大腸の機能 6) 消化器系の成長と老化	○						
12		○						
13	9. 尿を作るしくみ 1) 腎臓の機能 (1) 尿の生成 (2) 血液成分の調節 2) 尿管、膀胱、尿道 3) 排尿の生理 4) 泌尿器系の成長と老化	○						単元別試験 内分泌腺とホルモン
14		○						
15	単元別試験と解説	○						
16	10. 内部の環境を整えるしくみ 1) 内分泌系とホルモン 2) 脳にあるホルモン分泌器官 3) 甲状腺 4) 上皮小体 5) 睪丸 6) 副腎 7) 性腺 8) 古典的内分泌器官以外のホルモン分泌器官 (消化器、腎臓、胸腺、心臓、脂肪、その他) 9) 内分泌系の成長と老化	○						単元別試験 女性生殖器、乳房、男性生殖器
17		○						
18	11. 子孫を残すしくみ 1) 女性生殖器 2) 男性生殖器	○						単元別試験：全身の骨格
19	12. 体を支えるしくみ 1) 骨と骨格 2) 関節の構造と機能 3) 骨格系の成長と老化	○						単元別試験：全身の筋肉
20	13. 体を動かすしくみ 1) 筋の種類 2) 筋の機能 3) 身体の運動を骨格筋 4) 筋系の成長と老化	○						
21		○						
22	単元別試験と解説	○						
23	14. 情報を収集して判断し伝達するしくみ 1) 神経系の分類 2) 神経組織の構造と機能 3) 中枢神経系 4) 末梢神経系 5) 生体のリズム	○						単元別試験：脳の構造、脊髄神経
24		○						
25	15. 外部から情報を取り入れるしくみ 1) 感覚器の特徴 2) 視覚 (1) 眼球の機能 (2) 眼球の血管系 (3) 視覚の伝導路、調節系 (4) 色覚 3) 聴覚と平衡覚 (1) 聴覚器の機能 (2) 平衡感覚の構造と機能 (3) 科学的感覚（聴覚と味覚） (4) 体性感覚 (5) 内臓感覚 (6) 感覚系の成長と老化	○						単元別試験：感覚器（眼、耳、鼻）
26		○						
27		○						
28	16. 異物を認識、記憶をして排除するしくみ 1) 免疫系のおおまかしくみ 2) 獲得免疫系のしくみ 3) 自然免疫系のしくみと獲得免疫系との関連	○						
29		○						
30	単元別試験と解説	○						

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	日常生活から見るからだ	講師	氏名	西岡加代子	開講年次	単位・時間	
			所属	専任教員	1年次 後期	1単位 30時間	
			実務経験	臨床看護師			
科目のねらい	看護の主眼は、毎日繰り返されている日常生活行動を支えることである。日常生活を作り上げている食べること、トイレに行くこと、お風呂に入ること、眠ること等の日常生活は、すべてのからだの働きの上に成り立っている。からだがどのようにしてこれらを成し遂げているのかを理解することが、看護実践にとって必要である。ここでは、『からだの機能』で学習をした生理学の知識を日常生活行動に重点を置いた看護の枠組みでからだを見直し、知識の整理をする。そしてその知識を、病んだときの体の変化と、それに伴う日常生活行動の変化を理解する土台にし、援助技術の理解に繋げる。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>「食べる」ために必要な神経系、感覚系、消化器系、骨格系、筋系のからだの機能が説明できる。</li> <li>「トイレに行く」ために必要な神経系、感覚系、泌尿器系、消化器系、骨格系、筋系のからだの機能が説明できる。</li> <li>「お風呂に入る」ために必要な神経系、感覚系、循環器系、呼吸器系、骨格系、筋系のからだの機能が説明できる。</li> <li>「寝る」ために必要な神経系、骨格系、筋系、内分泌系からだの機能が説明できる。</li> </ol>						
思考判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>「食べる」ために必要なからだの機能をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができる。</li> <li>「トイレに行く」ために必要なからだの機能をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができる。</li> <li>「お風呂に入る」ために必要なからだの機能をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができる。</li> <li>「寝る」ために必要なからだの機能をわかりやすくまとめ、他者に伝えることができる。</li> <li>日常生活を支えるために必要な援助を考えることができる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>各日常生活に必要なからだの動きについて具体的に考え、まとめることができる。</li> <li>グループワークにおいて他者の意見を受け入れながら活発な意見交換ができる。</li> <li>各日常生活に必要な『からだの機能』の復習ができる。</li> </ol>						
科目評価	定期（筆記）試験：50% 発表資料・発表会：50% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学（メディカ出版）						
参考文献	看護形態機能学 生活行動からみるからだ 第4版 日本看護協会出版会						
回数	教育内容	教育方法 講義 演習 その他			講師	関連科目	留意事項
1	「食べる」ために必要なからだ機能 1. 空腹感を感じる 2. 座る 3. 食事を認識する 4. 食事を口に運ぶ 5. 味を感じる 6. 咀嚼・嚥下 7. 消化・吸収 8. 満腹感を感じる	○			西岡加代子	からだの構造 からだの機能 療養生活援助技術Ⅰ 療養生活援助技術Ⅱ 診療補助援助技術Ⅰ 診療補助援助技術Ⅱ	「食べる」ために必要なからだの動きを具体的に考え、グループワークでその動きに必要なからだの機能をグループワークする。発表資料作成。
2		○					
3	「食べる」発表会		○				
4	「食べる」まとめ	○					単元別試験：「食べる」ために必要なからだの機能
5	「トイレに行く」ために必要なからだの機能 1. 尿意・便意を感じる 2. 尿意・便意を我慢する 3. トイレを認識する 4. トイレに行く 5. 下着を下げる 6. 便座に腰をかける 7. 排尿・排便する 8. トイレトペーパーで拭く 9. 下着を上げる 10. 手を洗う	○					「トイレに行く」ために必要なからだの動きを具体的に考え、グループワークでその動きに必要なからだの機能をグループワークする。発表資料作成。
6		○					
7	「トイレに行く」発表会		○				
8	「トイレに行く」まとめ	○					単元別試験：「トイレに行く」ために必要なからだの機能
9	「お風呂に入る」ために必要なからだの機能 1. 服を脱ぐ 2. 浴槽をまたぐ 3. お湯に浸かる 4. 体を洗う 5. 服を着る	○					「お風呂に入る」ために必要なからだの動きを具体的に考え、グループワークでその動きに必要なからだの機能をグループワークする。発表資料作成。
10		○					
11	「お風呂に入る」発表会		○				
12	「お風呂に入る」まとめ	○					単元別試験：「お風呂に入る」ために必要なからだの機能
13	「寝る」ために必要なからだの機能 1. 眠気を感じる 2. 布団に入る 3. 入眠する	○					「寝る」ために必要なからだの動きを具体的に考え、グループワークでその動きに必要なからだの機能をグループワークする。発表資料作成。
14	「寝る」発表会		○				
15	「寝る」まとめ	○					単元別試験：「寝る」ために必要なからだの機能

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	生命に必要なエネルギー	講師	氏名	①松尾千穂 ②浦野朱美 ③内藤直美	開講年次	1年次 後期	単位・時間	1単位 30時間
			所属	①(なし) ②病院 ③専任教員				
			実務経験	①②管理栄養士 ③臨床看護師				
科目のねらい	看護の対象であるあらゆる人々の健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を学ぶ。また、健康障害と栄養療法について疾患系統別の食事療法の実際について学び、栄養管理に必要な知識を身につける。							
到達目標								
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生命を維持する栄養の働きが説明できる。</li> <li>2. 栄養素の成分と体の化合物について理解し述べることができる。</li> <li>3. エネルギー産生の仕組みや合成について理解し、述べるができる。</li> <li>4. 各種疾患の患者の食事療法の基本が説明できる。</li> </ol>							
思考判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養素の化学反応を図式化できる。</li> <li>2. 食品のカロリー計算ができる。</li> <li>3. 栄養食事療法におけるチーム医療での看護師の役割が説明できる。</li> </ol>							
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の食文化を学び、現代の食生活について質問できる。</li> <li>2. グループワークで積極的に意見交換できる。</li> <li>3. 自己の栄養状態と日々の食事について調べるができる。</li> </ol>							
科目評価	定期試験(筆記)70% レポート20% 単元別テスト10% 合計100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 (メデイカ出版) ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 (メデイカ出版)							
参考文献								
回数	教育内容	教育方法				関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他	講師			
1	1. 人間の食事と食文化	○			松尾千穂	文化人類学	日本の食文化と世界の食文化について事前に調べて講義に臨む。	
2	2. 人体と栄養生化学 1) 代謝とは (1) 代謝 (2) 異化と同化 2) 生命維持に必要な栄養素の構造と性質 (1) 糖質 (2) 脂質 (3) アミノ酸と蛋白質 (4) 核酸とヌクレオチド (5) ビタミン	○						
3	3. さまざまな代謝 1) 糖質代謝 2) 脂質代謝 3) 蛋白質とアミノ酸代謝 4) 核酸・ヌクレオチド代謝	○					1. 異化と同化 2. 以下の代謝について小テスト。 糖質、脂質、蛋白質とアミノ酸、核酸・ヌクレオチド代謝	
4	4. 栄養とは 1) 栄養と栄養素 2) 栄養素の分類 (1) 蛋白質 (2) 炭水化物 (3) 脂質 (4) ミネラル (5) ビタミン (6) 水 5. 食品成分と食事摂取基準	○				日常生活から見るからだ	(1) 蛋白質 (2) 炭水化物 (3) 脂質 (4) ミネラル (5) ビタミンの働きについて 単元別テスト	
5	6. 療養生活と栄養 1) 運動と栄養 7. 成長段階と栄養 1) 乳幼児 2) 学童・青年期 3) 壮年期・向老期 4) 老年期 (PEM) 5) 妊産婦	○			浦野朱美	発達心理学 各専門分野		
6		○						
7	8. 療養生活と栄養 1) 非経口栄養 (1) 経管栄養 (2) 静脈栄養	○				療養生活援助技術Ⅱ		
8	9. 疾患と治療食 1) 栄養代謝疾患の栄養食事療法 (糖尿病・代謝疾患) 2) 腎臓病・泌尿器疾患の栄養食事療法 3) 呼吸器・循環器疾患 (心疾患・高血圧)	○			呼吸、循環、血液の病を看る 消化及び排泄の病を看る 体の調節と神経の病を看る			
9		○					1)～4)まで小テスト	
10	4) 血液疾患患者の栄養食事療法	○						
11	10. 栄養とチームNSTの実際	○			内藤直美			
12		○	○					
13	11. 栄養食事指導の実際(家族や友人への指導)	○	○				食事栄養指導作成し提出(レポートとして評価)	
14	12. 栄養を調べる (前日に摂取した食事の写真をとり、食品交換表を使いながらカロリー計算を行う)	○				自分の必要なカロリーと比較してアセスメント後レポート提出		
15	まとめ	○						

人体の構造と機能

専門基礎分野

授業科目	小さな生物	講師	氏名	下川 修	開講年次	単位・時間	
			所属		1年次前～後期	1単位 30時間	
			実務経験	元教授			
科目のねらい	微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)の生物学的な特徴を学ぶ。また、微生物が生体に及ぼす影響を理解するとともに、感染症の原因となる微生物の基礎を学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 病原体としての微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)について、種類と特徴を述べることができる。 2. 消毒薬の使用上の注意を理解し、消毒薬を濃度計算し作成できる。						
思考・判断・表現	1. 宿主の臓器、組織別の症状より、病原体である微生物の形態や性状を予測し、検査、治療を説明できる。						
主体的学習態度	1. 社会的に話題や流行になっている感染症に対して、自ら調べ述べるができる。						
科目評価	定期試験(筆記) 100%						
テキスト	ビジュアル微生物学 第2版 (ヌーヴェルヒロカワ)						
参考文献	ナースのための微生物学 ~感染症とその対策の理解のために~ (南江堂) ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち③臨床微生物・医動物 (メディカ出版)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	微生物学の導入 歴史、微生物の特徴	○			下川修	公衆衛生	
2	細菌学総論	○				からだの機能 日常生活から見るからだ	
3	細菌の検査法 グラム染色 手指に付着する細菌培養	○	○				
4	細菌学各論	○					
5	細菌学各論	○				診療補助援助技術Ⅱ	
6	滅菌と消毒 消毒薬の作成(濃度計算)と取り扱い	○	○				
7	感染症の治療と予防 多剤耐性菌	○				臨床薬理学	
8	ウイルス学総論	○				からだの機能 日常生活から見るからだ	
9	呼吸器感染症(インフルエンザウイルス、肺炎球菌)、結核菌	○					
10	消化器系感染症(O157, コレラ菌、赤痢菌、チフス菌、ヘリコバクターピロリ)、肝炎	○					
11	尿路感染症(大腸菌、緑膿菌)、性感染症(ヒト免疫不全ウイルス、クラミジア、淋菌)	○					
12	皮膚・粘膜感染症(A群連鎖球菌、黄色ブドウ球菌)、脳・神経系感染症(髄膜炎菌、日本脳炎ウイルス)	○					
13	人獣共通感染症、寄生虫	○				子どもの病を見る、 リプロダクティブヘルスの 看護 高齢者看護へようこそ	
14	小児、母子、高齢者感染症	○					
15	日和見感染症 手術部位感染の原因菌	○					

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	呼吸・循環・血液の病を看る	講師	氏名	開講年次	単位・時間		
			①松本 唯 ②安藤肇 ③中島由貴 ④青木孝友 ⑤長谷川杏子				
			所属			①～④病院 ⑤専任教員	
実務経験	①慢性心不全看護認定看護師 ②④医師 ③⑤臨床看護師						
科目のねらい	看護師が看護実践するためには疾病に対する知識が必要である。呼吸器・循環器・血液（造血器）の代表的な疾患を中心に、その病因・病態生理・特徴的な検査・治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメントの基盤を形成する。						
到達目標							
知識・技術	1. 呼吸器の構造とその機能や機能障害が起こる機序について理解し、説明できる。 2. 循環器の構造とその機能や機能障害が起こる機序について理解し、説明できる。 3. 各血液細胞の機能や機能障害が起こる機序について理解し説明できる。 4. 各器官についての知識を活用し、マインドマップを作成することができる。						
思考判断・表現	1. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 2. 疾患から起こりうる合併症や予後を考察し、発言できる。						
主体的学習態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる。 2. 主体的に予習・復習を行うことができる。						
科目評価	定期試験（筆記） 80% 課題20% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護① 呼吸機能障害/循環機能障害（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護③ 造血機能障害/免疫機能障害（メディカ出版）						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾患と看護① 呼吸器（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾患と看護② 循環器（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾患と看護④ 血液/アレルギー・膠原病/感染症（メディカ出版）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	1. 呼吸器・循環器疾患特有の症状とその病態生理 1) 呼吸困難 2) 胸痛 3) チアノーゼ 4) 咳嗽と喀痰 5) 胸水貯留 6) 冠循環の異常と心筋収縮の指令の障害 7) 心不全	○			松本唯	からだの機能 からだの構造 日常生活から見るからだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	課題①「肺と循環のつながり」事前課題②マインドマップ作成
2		○					課題③マインドマップ作成 課題④致命的不整脈について
3		○					
4	2. 呼吸器疾患 1) 気道・肺の炎症 気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・肺炎 2) 呼吸不全・気胸 3) 肺循環障害 肺梗塞・肺塞栓症 4) 肺腫瘍 癌・中皮腫	○			安藤肇		
5		○					
6		○					
7	3. 循環器疾患 1) 虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 2) 心不全 3) 不整脈 4) 心臓弁膜症 5) 血管の疾患 ①動脈瘤 ②静脈瘤	○			古財敏之		
8		○					
9		○					
10		○					
11	呼吸器・循環器を看るとは？	○		○	長谷川杏子		
12	4. 血液（造血器）疾患特有の症状とその病態生理 1) 貧血 2) 出血傾向	○			中島由貴	課題⑤マインドマップ作成 課題⑥「血液細胞の持つ諸機能の障害」	
13		○					
14	5. 血液疾患 1) 白血病 2) 血友病 3) ホジキン病・非ホジキン病	○			青木孝友		
15	造血器を看るとは？	○		○	長谷川杏子		

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	消化及び排泄の病を見る	講師	氏名	①新生修一 ②大野大地 ③不動寺美紀 ④安部信一	開講年次	単位・時間	
			所属	①～③病院 ④専任教員			
			実務経験	①②医師 ③透析看護認定看護師 ④臨床看護師			
科目のねらい	看護師が看護実践するためには疾病に対する知識が必要である。消化及び排泄に関する代表的な疾患を中心にその病因、病態生理、特徴的な検査、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメントの基盤を形成する。また、消化及び排泄の病が日常生活に影響を及ぼすことについて理解する。						
到達目標							
知識・技術	1. 消化器の構造とその機能や機能障害が起こる機序について説明できる。 2. 腎・泌尿器、電解質の構造とその機能や機能障害が起こる機序について説明できる。 3. 各器官についての知識を活用し、マインドマップを作成することができる。						
思考判断・表現	1. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 2. 疾患から起こりうる合併症や予後を考察し、臨床推論することができる。 3. 消化器の障害により起こりうることを考え、対象を看ることができる。 4. 排泄機能の障害により起こりうることを考え、対象を看することができる。						
主体的学習態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる。 2. 主体的に予習・復習を行うことができる。						
科目評価	定期試験(筆記) 80% 課題20% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療(メディカ出版)						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾病と看護③ 消化器 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 疾病と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌代謝 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害 (メディカ出版)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	1. 消化器疾患 1) 症状とその病態生理 ①腹痛 ②便秘	○		○	安部信一	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	課題①: マインドマップ作成
2	③下痢 ④嘔吐 ⑤吐血 ⑥門脈圧亢進症 ⑦肝性脳症 ⑧黄疸	○					課題②: 肝機能の低下による症状とその病態生理
3	⑨腹水 ⑩口腔内症状	○					課題②消化器疾患の癌について
4	2) 食道の疾患 3) 消化器の炎症と潰瘍 1) 胃十二指腸潰瘍	○			新生修一		
5	2) 潰瘍性大腸炎 3) クロウン病	○					
6	4) 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症と腫瘍 ①肝硬変 ②肝がん ③肝炎 ④胆石症 ⑤胆嚢炎 ⑥膵炎	○					
7		○					
8	消化器を看るとは?	○		○	安部信一		
9	2. 排泄(腎・泌尿器系) 1) 症状と病態生理 ①アンギオテンシンと体液調整 ②ホルモンによる体液調整 ③腎臓の排泄(ナトリウム再吸収) ④電解質異常	○			不動寺美紀	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	課題③マインドマップ作成 課題④アルカローシスとアシドーシス(代謝性・呼吸性)
10	⑤浮腫 ⑥脱水(3つの種類) ⑦アシドーシスとアルカローシス	○					
11	2) 腎臓病 ①糸球体腎炎 ②腎不全(急性・慢性)	○			大野大地		
12	3) 腎・尿路の腫瘍 ①腎臓癌 ②尿管腫瘍 ③膀胱癌	○					
13	4) 尿路の炎症 ①尿路感染症	○					
14	5) 尿路の通過障害 ①尿路結石	○					
15	排泄を看るとは?	○		○	安部信一		

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	体の調節と神経の病を見る	講師	氏名	①福田康則 ②富田健一 ③木下良正 ④安部信一	開講年次	単位・時間	
			所属	①②③病院 ④専任教員	1年次 前～後期	1単位 30時間	
			実務経験	②③医師 ①④臨床看護師			
科目の ねらい	内分泌・代謝、脳神経系の代表的な疾患を中心にその病因、病態生理、特徴的な検査、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメントの基礎能力を身につける。						
到達目標							
知識・技術	1. 内分泌・代謝の構造とその機能や、機能障害がおこる機序について説明できる。 2. 脳神経の構造とその機能や、機能障害がおこる機序について説明できる。						
思考 判断・表現	1. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 2. 疾患から起こりうる合併症や予後を考察し、発言できる。 3. 各器官についての知識を活用し、マインドマップを作成することができる。						
主体的学習 態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる。 2. 主体的に予習・復習を行うことができる。						
科目評価	定期試験（筆記）80% 課題20% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑦ 疾病と治療（メディカ出版）						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾病と看護③ ナーシング・グラフィカ 疾患と看護⑧ 消化器（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 腎/泌尿器/内分泌代謝（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑥ 内部環境調節機能障害/性・生殖機能障害（メディカ出版）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	内分泌・代謝 症状と病態生理 ホルモン分泌異常に伴う症状	○			福田 康則	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 病理学総論 治療学総論 臨床薬理学	人体の構造と機能について、復習して講義に臨むこと。 講義終了後はテキスト・配布資料で復習する。 マインドマップ作成
2	疾患の診断と治療（内分泌）	○					
3	下垂体疾患・甲状腺疾患・上皮小体（副甲状腺）・副腎疾患	○					
4		○					
5	疾患の診断と治療（代謝） 1) 糖尿病 2) 高尿酸血症 3) 高脂血症	○			富田 健一		
6	体の調整を看るとは？	○	○		安部信 一		
7	脳神経系症状とその病態生理 1) 頭蓋内圧亢進 2) 脳ヘルニア	○			木下 良正		
8	脳血管障害 1) 脳梗塞 2) 脳出血	○					
9	3) もやもや病 4) 脳動静脈奇形	○					
10	頭部外傷	○					
11	脳腫瘍	○					
12	脳炎・髄膜炎・感染症 クロイツフェルト・ヤコブ病	○					
13	変性疾患 1) パーキンソン病 2) 筋萎縮性側索硬化症	○					
14	認知症 1) アルツハイマー病 2) 血管性認知症 3) レビー小体型認知症	○					
15	脳神経を看るとは？	○	○				安部信 一

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	運動することと感覚の病を看る	講師	氏名	①福元智子 ②久保利江子 ③安部信一	開講年次	単位・時間	
			所属	①②病院 ③専任教員			
			実務経験	①②医 師 ③臨床看護師			
科目のねらい	運動器・感覚器疾患の代表的な疾患を中心に、その原因、病態生理、特徴的な検査、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメント能力を身に付ける。						
到達目標							
知識・技術	1. 運動器・感覚器障害が出現するメカニズム及び原因を理解し、説明できる。 2. 運動器・感覚器疾患に対する検査、治療の目的を理解し、説明できる。 3. 運動器・感覚器疾患から起こりうる合併症や予後について理解し、説明できる。						
思考判断・表現	1. 各器官についての知識を活用し、マインドマップを作成することができる。 2. 運動器・感覚器障害に伴う症状が、日常生活にどのような影響を与えるかを看護の視点から検討できる。						
主体的学習態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる。 2. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 3. 主体的に予習・復習を行うことができる。						
科目評価	定期試験（筆記）80% 課題20% 合計100%						
テキスト	ナーシンググラフィカ 健康の回復と治療⑦ 疾病と治療（メディカ出版）						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾病と看護⑦ 運動器（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑥ 運動機能障害（メディカ出版）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	運動器系の病態生理とその症状	○			福元智子	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 治療学総論 病理学総論 臨床薬理学	事前課題①：「包帯法」 課題②：マインドマップ
2	骨折による疾患	○					
3	1) 大腿骨頸部骨折 2) 大腿骨骨幹部骨折 3) 脊椎骨折	○					
4	4) 上肢・下肢の骨折 5) 鎖骨骨折 6) 胸腰椎骨折	○					
5	腰痛症	○					
6	1) 椎間板ヘルニア 2) 腰部脊柱管狭窄症 検査) ミエログラフィー	○					
7	脱臼・捻挫・骨粗しょう症・骨腫瘍の病態生理とその治療	○	○		安部信一		
8	(ギブス療法・保存療法を踏まえて、看護師に必要な情報収集を実践)	○	○				
9	運動器系を看るとは？			○			
10	眼疾患の病態生理とその症状 1. 視覚障害 1) 白内障 2) 緑内障 3) 網膜剥離 2. 屈曲の障害 1) 近視 2) 乱視 3) 弱視	○				課題③：マインドマップ	
11	耳鼻科咽喉科疾患の病態生理とその症状	○			久保利江子	課題④：マインドマップ	
12	1) 滲出性中耳炎 2) メニエール症候群	○					
13	皮膚疾患 病態生理とその症状 1) 表在性皮膚疾患 2) 接触性皮膚炎 3) 陥入爪 4) 白癬症 5) 疥癬 6) 帯状疱疹 7) 物理化学的皮膚障害：熱傷	○				課題⑤：マインドマップ	
14		○					
15	感覚器を看るとは？	○			安部信一		

疾病の成り立ちと回復の促進

専門分野

授業科目	体を守ることの病を見る	講師	氏名	①池上和範 ②掛札博士 ③西岡加代子	開講年次	単位・時間	
			所属	①②病院 ③専任教員			
			実務経験	①医師 ②③臨床看護師			
科目のねらい	看護師が看護実践するためには、疾病に対する知識が必要である。アレルギー・膠原病及び感染症の代表的な疾患を中心に、その原因、病態生理、特徴的な検査、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメント能力を身に付ける。						
到達目標							
知識・技術	1. アレルギー・膠原病・感染症が出現するメカニズム及び原因を理解し、説明できる。 2. アレルギー・膠原病・感染症疾患に対する検査、治療の目的を理解し、説明できる。 3. 日常に起こりうる感染症について説明できる。 4. 各器官についての知識を活用し、マインドマップを作成することができる。						
思考判断・表現	1. 各疾患の病態生理についてテキストを活用し、調べることができる。 2. 疾患から起こりうる合併症や予後を考察し、発言できる。 3. I～IV型までのアレルギー反応の機序を説明し、代表例をあげることができる。						
主体的学習態度	1. 講義において積極的に質問し、理解しようと努力する行動がみられる 2. 主体的に予習・復習を行うことができる						
科目評価	定期試験(筆記) 80% 課題20% 合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康の回復と治療⑦ 疾病と治療 (メディカ出版)						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾病と看護④血液/アレルギー・膠原病/感染症 (メディカ出版) ナーシング・グラフィカ 健康の回復と看護⑤ 造血機能障害/免疫機能障害 (メディカ出版)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	アレルギー症状とその病態生理 I～IV型アレルギー	○			池上和範	からだの構造 からだの機能 日常生活から見るからだ 治療学総論 病理学総論 臨床薬理学	身体の仕組みと働きについて事前に復習して臨むこと。 また講義資料を持参すること。
2		○					
3	膠原病、自己免疫疾患とその機序 症状とその病態生理	○					
4	1) 自己免疫疾患 SLE 関節リウマチ シェーグレン症候群 強皮症	○					
5	感染症 症状とそのメカニズム 1) HIV感染症と日和見感染	○			掛札博士		膠原病及び感染症のマインドマップを記載。 新型コロナ感染症やインフルエンザ予防策を調べレポートする。
6	2) 日常的に起こりやすい感染症対策とその予防を検討	○					
7	・シミュレーションしレポートする		○				
8	体を守ることをに看るとは?	○			西岡加代子		

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	子どもの病を見る	講師	氏名	①酒井道生	開講年次	1年次 後期	単位・時間 1単位 30時間
			所属	①病院			
			実務経験	①医師			
科目のねらい	小児科は臓器別診療ではなく、総合診療である。また、小児は大きさが小さいだけでなく、解剖生理学的にも精神的にも成人とは異なった特性がある。ヒトの臓器の発育・発達臓器ごとに大きく異なる。看護の大半は成人疾患を理解することにあるが、そこで習ったことをそのまま小児に当てはめることはできない。小児期に発症した疾患が成人期に至るまでどのような経過や過程たどるのかを学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 小児の臓器の発育・発達の特徴を述べることができる。 2. 代表的な小児疾患の好発年齢や病態、症状の重要なポイントと検査、治療を行う目的を説明できる。						
思考・判断・表現	1. 小児期に発症した疾患が成人期に至るまでの過程を考察できる。 2. 小児疾患が子どもとその家族に与える影響を発言できる。						
主体的学習態度	1. 事前に小児疾患で学習する内容に類似した成人疾患を予習しながら比較して学習ができる。 2. 小児疾患の看護師国家試験問題を解き定期試験に臨むことができる。						
科目評価	定期試験（筆記）100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学③ 小児の疾患と看護 （メディカ出版）						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児臨床看護各論 （医学書院）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	小児ウイルス感染症	○			酒井道生	小さな生物 呼吸・循環・血液を見る	「小さな生物」で学んだ感染症を踏まえ、小児感染症の看護を学習する。
2	小児細菌感染症	○				体の調節と神経の病を見る	小児はアレルギーマーチをおこしやすい。好発年齢を踏まえてアレルギー看護を学習する。
3	小児呼吸器疾患、小児気管支喘息	○				成人糖尿病との看護の違いを学ぶ。	
4	食物アレルギー、アトピー性皮膚炎	○				医療ケア児の原因疾患であることが多いため、日常生活への影響を理解する。	
5	1型・2型糖尿病、低身長症	○				消化・排泄の病を見る	小児特有の消化器疾患は胎児期から発生している新生児より手術が必要なことが多い。手術適応時期を理解する。
6	脳性麻痺、二分脊椎、水頭症	○				呼吸・循環・血液を見る	ネフローゼ症候群と急性糸球体腎炎の乏尿期における看護の違いを理解する。
7	てんかん、筋ジストロフィ	○				小児がんで最も多い白血病である。	
8	消化器疾患	○				小児循環器疾患における病態、治療とその経過の看護を学習する。	
9	(外科疾患含む)	○				小児自己免疫疾患の治療とその後の経過を理解し看護につなげる。	
10	ネフローゼ症候群、急性糸球体腎炎 尿路感染症、IgA腎症	○				運動・体を守ることの病を見る	小児運動器疾患の特徴と、その後の後遺症を看護へつなげる。
11	白血病、神経芽腫、血友病、紫斑病	○					全ての小児疾患を看護に結び付け考えることが重要である。
12	心室中隔欠損症、ファロー四徴症 動脈管開存症、心房中隔欠損症	○					
13	川崎病、若年性特発性関節炎 若年性皮膚筋炎	○					
14	上腕顆上骨折、先天性股関節脱臼 ペルテス病、先天性内反足	○					
15	小児疾患をもつ子どもの看護	○					

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	こころの病を看る	講師	氏名	①南里幸一郎 ②戸田真理	開講年次	2年次 前期	単位・時間	1 単位 15時間
			所属	①病院 ②専任教員				
			実務経験	①医師 ②臨床看護師				
科目のねらい	代表的な精神疾患を中心とした病態生理、治療などを学習し、臨床看護に必要なアセスメントの基礎的能力を身に付ける。							
到達目標								
知識・技術	1. すべての精神疾患の病態生理・治療・検査を理解し、述べることができる。 2. 精神医療で用いられる検査、治療の概要を理解し、述べるができる。 3. 精神障害を発症する成因を3つの視点（生物学的成因・心理学的成因・社会的成因）から理解できる。 4. 薬物治療で用いられる薬の知識を得て、身体作用及び有害作用や注意点を述べるができる。							
思考 判断・表現	1. 基本的な精神科治療を基に、それぞれの疾患に合わせた治療とその効用を記述できる。 2. 病態生理と3つの成因を理解したうえで、対象の生活障害と精神症状の関連を考え、図示できる。 3. 精神疾患の病態をふまえ、社会復帰をすることの困難さを説明できる。							
主体的学習 態度	1. 精神疾患と精神症状を理解し、看護ケアについて自己の意見や疑問を述べるができる。 2. 精神疾患の治療や検査と一般診療との違いを考え、質問できる。 3. 自己学習により生じた疑問等について講義前後に質問し、積極的に調べるができる。							
科目評価	定期試験（筆記）100%							
テキスト	ナーシング・グラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践（メディカ出版）							
参考文献	ナーシング・グラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障（メディカ出版） ナーシング・グラフィカ 疾患と看護⑤ EX5巻脳・神経（メディカ出版） 系統学看護講座 精神看護の基礎 精神看護の展開（医学書院）							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1	精神疾患における主な症状と治療	○			南里幸一郎	社会福祉 社会保障 発達心理学 こころの働きと精神保健 精神医療を支える看護 体の調節と神経の病を看る 小児の発達と看護	全ての講義開始前には必ずテキストで予習しておく。	
2	1) 神経発達症 2) 統合失調症	○						
3	3) 気分障害 4) 不安障害 5) 強迫性障害	○						
4	6) ストレス関連障害 7) 解離性障害 8) 身体症状症及び関連症	○						
5	9) 摂食障害 10) 物質関連障害 11) パーソナリティ障害	○						
6	すべての精神疾患に関連した治療と検査	○						
7	1) 薬物療法 2) 精神療法 3) 社会療法 4) 電気療療法 5) 心理検査 6) リハビリテーション療法等	○						
8	精神の病を看護の視点で看る	○			戸田真理	1～7回までの復習テストを実施。 看護師としてどのように病を看ていくのか、関連付ける。（心の働きと精神保健及び精神医療を支える看護と関連付ける。）		

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	病理学総論	講師	氏名	北 敏郎	開講年次	1年次 前 ～後期	単位・時間	1単位 30時間
			所属					
			実務経験	元教授				
科目のねらい	病理学では、病気の病因と、成り立つ機序について理解を深めることにより、疾病をもたらす身体の変化について理解する。ここでは、疾病を主に病因論、先天異常、炎症、代謝障害、循環障害、腫瘍、全身の各臓器に共通する病的変化について理解を深めていく。							
到達目標								
知識・技術	1. 主要な疾患の病状、病因、病態について理解し述べるができる。 2. 疾患をもたらす機能障害について理解し述べるができる。 3. 症状のメカニズムを図式化することができる。							
思考判断・表現	1. 人体に生じる異常状態について原因、発生のしくみ、身体への影響を考え発言できる。 2. 主要な疾患の病因、病態、病状を関連付けて、表すことができる。							
主体的学習態度	1. 疾病（病気）の成り立ちに興味・関心を持ち、授業に臨む。 2. 興味関心を持ちながら講義に出席し、自ら調べ学習を行う事ができる。							
科目評価	定期試験（筆記）：50% 単元別テスト①～⑤：50% 合計100%							
テキスト	系統看護学講座 病理学（医学書院）							
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち① 病態生理学（メディカ出版）							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項	
		講義	演習	その他				
1		○			北 敏 郎	日常生活から見るからだ 小さな生物 呼吸・循環・血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 体の調節と神経の病を見る 運動をすることの病を見る 体を守ることの病を見る	講義開始前は必ず、項目のページを読んで受講すること (1～15回まで) 適宜単元別テスト 評価の対象とする。	
2	1. 病理学で学ぶこと	○					単元別テスト①	
3	1) 看護と病理学	○						
4	2) 病気の原因	○					単元別テスト②	
5	3) 疾病の分類	○						
6		○					単元別テスト③	
7		○						
8		○					単元別テスト④	
9	8. 代謝障害 1) 脂質代謝障害 2) タンパク質代謝障害 3) 糖尿病	○						
10	9. 先天性異常と遺伝子異常 1) 遺伝の生物学 2) 先天異常	○						
11	3) 遺伝子の異常 4) 先天異常・遺伝子疾患の診断	○						
12	10. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 悪性腫瘍の広がりや影響	○						
13	3) 腫瘍の発生病理 4) 腫瘍の診断	○						
14	11. 老化と死 1) 老化現象 2) 老化のメカニズム	○					単元別テスト⑤	
15	3) 死体现象 4) 脳死 5) 死因とその究明	○						

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	治療学総論	講師	氏名	①廣郡聖妙 ②奥之菌雄一 ③大田登志樹他 ④諸岡厚他 ⑤松莊美樹子 ⑥森 香予	開講年次	1年次 前～後期	単位・時間  1単位 30時間
			所属	①～⑤病院			
			実務経験	①医師 ②放射線技師 ③作業療法士 ④臨床検査技師 ⑤がん放射線療法看護認定看護師 ⑥がん化学療法看護認定看護師			
科目のねらい	各疾患に共通する治療、検査についてその概要を理解し、臨床看護に必要な基礎的知識を学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法の概要を理解し説明できる。</li> <li>2. 放射線療法の概要を理解し説明できる。</li> <li>3. リハビリテーション療法の概要を理解し説明できる。</li> <li>4. 臨床検査の概要を理解し説明できる。</li> <li>5. 化学療法の概要を理解し述べることができる。</li> </ol>						
思考判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 手術療法が身体に及ぼす影響を記述することができる。</li> <li>2. 放射線療法が身体に及ぼす影響・効果を記述することができる。</li> <li>3. リハビリテーション療法の目的と種類を理解し記述することができる。</li> <li>4. 各、臨床検査の方法や禁忌事項を理解し記述することができる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 検査・治療が安全に遂行され、どのように対象を支援しているか考えることができる。</li> <li>2. 対象の状態にあわせて様々な専門チームが連携していることに気づく。</li> </ol>						
科目評価	定期試験（筆記）100%						
テキスト	系統看護学 別巻 臨床検査（医学書院） 系統看護学 別巻 臨床放射線医学（医学書院） 系統看護学 別巻 臨床外科看護総論（医学書院）						
参考文献							
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	【手術療法】 1) 手術侵襲と生体の反応	○			廣郡聖妙	からだの構造 からだの機能 呼吸・循環・血液の病を見る 消化及び排泄の病を見る 運動することと感覚の病を見る 体をまもることの病を見る 子どもの病を見る 病理学総論 臨床薬理学 薬物療法の看護	予習においてはテキストを熟読し、理解出来ない箇所を明確にする。  テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し理解を深める。
2	2) 麻酔法 (1) 麻酔とは (2) 麻酔の種類	○					
3	3) 手術方法 (1) 開腹、開胸手術 (2) 内視鏡下による手術 4) ドレーン管理	○					
4	【放射線検査】 1) 放射線医学の成り立ち	○			奥之菌雄一		
5	2) X線診断 3) 血管造影 4) IVR 5) MRI 6) 核医学診断 7) 放射線治療	○					
6	8) 人体への影響と放射線防護	○					
7	放射線療法について	○			松莊美樹子		
8	【リハビリテーション療法】 1) リハビリテーション医学	○			大田登志樹他		
9	2) リハビリテーション療法の目的 3) リハビリテーション療法の種類と特徴	○					
10	(1) 運動療法	○					
11	(2) 物理療法 (3) 作業療法 (4) 言語療法	○					
12	【臨床検査】 1) 血液検査の臨床的意義	○			諸岡厚他		
13	2) 生化学検査の臨床的意義 3) 病理免疫血清検査の臨床的意義	○					
14	4) 生理機能・病理学的検査の臨床的意義 5) 超音波診断	○					
15	【化学療法】 1) 化学療法とは 2) 化学療法の作用・副作用	○			森香予		

疾病の成り立ちと回復の促進

専門基礎分野

授業科目	臨床薬理学	講師	氏名	①高橋浩二郎 ②中垣春美 ③坂井雅俊 ④中島可織	開講年次	単位・時間	
			所属	②③病院 ④専任教員			
			実務経験	①管理薬剤師 ②臨床看護師			
科目のねらい	薬物の特徴と作用機序、人体への影響（副作用、相互作用等）、薬物の取り扱いや管理について学ぶ。また、服薬指導や留意点の理解および最新医療情報（新薬、副作用、相互作用等）について検索し、薬剤師（多職種）との連携を通し看護師の役割を理解する。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の特徴と作用機序を理解できる。</li> <li>2. 人体への影響（副作用、相互作用等）を理解し、説明できる。</li> <li>3. 薬物の取り扱い・管理方法について理解し説明できる。</li> <li>4. 禁忌薬について説明できる。</li> </ol>						
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬物の知識を使い類似薬品についての取り扱いを述べるができる。</li> <li>2. 輸血の取り扱いについて列挙できる。</li> </ol>						
主体的学習態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 服薬指導上の薬剤師の役割と看護師の役割を知り、協同していることを理解する。</li> <li>2. 薬害による影響を知り、自己で探求できる。</li> <li>3. 薬理作用、有害作用を知り対象への指導方法に向けて考えることができる。</li> </ol>						
科目評価	定期試験（筆記）90%      レポート10%      合計100%						
テキスト	系統看護学講座 薬理学 （医学書院）						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学（メディカ出版）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	薬理学総論	○			高橋浩二郎・中垣春美・坂井雅俊	全ての「病を看る」からだの構造からだの機能日常生活から見るからだ病理学総論各専門看護学	予習においてはテキストを熟読し、理解出来ない箇所を明確にする。テキスト・講義資料を用いて学習した内容を復習し理解を深める。 課題① 「薬剤の添付文書」よりわかることをレポート 課題② 輸血センター見学前「輸血の基礎知識について」 課題③ 輸血センター見学後「血液センターでの学び」レポート
2	1 薬物治療の目指すもの 2 体内動態	○					
3	3 薬効の影響する因子 4 薬害はなぜおきるのか 5 薬の管理と新薬の誕生	○					
4	6 剤形・投与経路 7 サプリメントと薬剤	○					
5	8 一般名と薬品名	○					
6	薬理学各論	○					
7	1 抗感染症薬 2 抗がん剤	○					
8	3 免疫治療薬 4 抗アレルギー薬・抗炎症薬	○					
9	5 末梢神経作用薬 6 中枢神経作用薬	○					
10	7 心性・血管系作用薬 8 呼吸器・消化器・生殖器系作用薬	○					
11	9 物質代謝作用薬 1 0 外用薬	○					
12	1 1 救急薬 1 2 漢方薬 1 3 輸液製剤 輸血製剤	○					
13	輸血センター施設見学			○	中島可織		
14	薬剤師が看護師に求めるもの	○					
15	まとめ	○					

健康支援と社会保障制度

専門基礎分野

授業科目	社会福祉	講師	氏名	①掛札博士 ②松本睦男 ③宮地麻里子 ④阿形七絵 ⑤田中千尋	開講年次	単位・時間	
			所属	①病院 ②児童相談所 ③④事業所 ⑤専任教員			
			実務経験	①社会福祉士 ②児童相談所 ③④精神保健福祉士 ⑤臨床看護師			
科目のねらい	社会福祉の歴史の変遷から社会福祉のしくみについて学び、対象別に見た社会福祉における課題を通して、社会資源や支援を考える。また、地域福祉の推進へと変化していく社会において、行政と住民の新たな社会福祉の在り方「互助」の活動であるコミュニティソーシャルワークについて理解を深める。						
到達目標							
知識・技術	1. 社会福祉の歴史の変遷から社会福祉制度について述べるができる。 2. 地域福祉におけるコミュニティソーシャルワークの展開について説明できる。						
思考判断・表現	1. 現代社会における社会福祉課題に気づき、政策の実際の動向を考察できる。 2. 居住地の地域アセスメントを行い、発表できる。						
主体的学習態度	1. 居住地の市町村社会福祉協議会に自ら調整し見学をする。						
科目評価	定期試験(筆記)50% レポート50%(居住地の地域アセスメント、福祉施設の地図)						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 (メディカ出版)						
参考文献	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 (医学書院)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	社会福祉のしくみ	○			掛札博士	民生委員、地域福祉コーディネーターから活動内容の講話	
2	日本と諸外国の社会福祉の歴史	○					
3	社会福祉サービスの組織や団体	○					
4	社会福祉の担い手と役割	○					
5	社会福祉の制度	○					
6	社会福祉の実践 (ソーシャルワーク、ケアワーク)	○					
7	地域福祉(コミュニティワーク)	○					
8	地域アセスメント		○				
9	社会福祉協議会 地域福祉計画		○				
10		○					
11	母子父子寡婦福祉	○			田中千尋	子どもの貧困のとその影響をレポート提出する。	
12	ひとり親家庭 児童福祉	○					
13	子どもの貧困と対策	○					
14	児童福祉施設・児童相談所	○			松本睦男	施設の役割と機能、連携をレポート提出する。	
15	障がい者福祉	○			宮地麻里子・阿形七絵		
16	就労支援障害者雇用促進法	○					
17	老人福祉	○					
18	精神保健福祉	○					
19	権利擁護と成年後見制度	○					
20	公的扶助(生活保護)	○					
21		○	○			事例を基に生活困窮者への支援を考える。	
22	貧困と格差問題とその支援	○					
23	まとめ	○					

健康支援と社会保障制度シラバス

専門基礎分野

授業科目	地域生活支援	講師	氏名	坪根雅子	開講年次	単位・時間	
			所属	事業所	2年次 前期	1単位 15時間	
			実務経験	主任介護 支援専門員			
科目の ねらい	社会保障の中の地域包括ケアシステム及び在宅医療・介護、基本的な制度を学ぶ。また、その場に関わる多職種連携についても学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 地域包括ケアシステムの概念について理解し説明できる。 2. さまざまなライフサイクル、健康レベルにある人々の地域における健康支援、サービス提供のシステムについて理解し列挙できる。 3. 訪問看護が行われるシステム、内容を理解し述べることができる。 4. 介護保険のしくみと機能を理解し、介護と医療の違いの特徴を列挙できる。 5. 救急医療の歴史と現状について理解できる。						
思考・ 判断・表現	1. 地域包括ケアにおける多様な専門職、および地域の人々と連携協働し活動する看護の役割について考えることができる。 2. 地域包括ケアの取り組みの実際を見学し、自己の考えをレポートできる。 3. 訪問看護が行われるシステム、内容を理解し述べることができる。						
主体的学習 態度	1. グループワークで積極的に自己の考えを述べるができる。 2. 新聞、テレビ等で報道されている内容について関心を持ち情報収集ができる。 3. 訪問看護及び介護保険施設について自己学習している。						
科目評価	定期試験(筆記) 80% レポート20% 合計100%						
テキスト	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 (メディカ出版)						
参考文献	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 (医学書院)						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	関連科目
		講義	演習	その他			
1	在宅医療 (1)在宅医療が進められた背景 (2)在宅医療の課題	○			坪 根 雅 子	社会福祉 高齢者看護へようこそ 在宅看護総論 社会保障 公衆衛生	
2	(1)地域包括ケアシステムとは (2)地域包括ケア病棟	○					学習のまとめをレポート提出する。
3	(3)地域連携室で働く専門職と退院支援看護士の役割	○					
4	(4)地域支援事業	○					
5	居宅サービス (1)訪問介護 (2)訪問看護 (3)訪問入浴介護 (4)訪問リハビリテーション (5)通所介護(デイサービス)	○					
6	(6)通所リハビリテーション(デイケア) (7)短期入所生活介護、短期入所療養介護(ショートステイ) (8)居宅介護支援事業	○					
7	介護保険施設 (1)介護保険福祉施設 (2)介護老人保健施設 (3)介護療養型医療施設(療養病床)	○					(8)については居宅介護支援に関する動画を視聴し、実践を知る。
8	地域密着型サービス (1)グループホーム (2)小規模多機能型居宅介護 定期巡回・随時対応型訪問介護 (3)	○					救急医療について、ニュースや新聞を使ってグループワークで現状を調べる。

健康支援と社会保障制度

専門基礎分野

授業科目	社会保障	講師	氏名	柴口里則	開講年次	単位・時間	
			所属	事業所	3年次 前期	1単位 30時間	
			実務経験	社会福祉主事 主任介護支援専門員			
科目の ねらい	我が国における社会保障制度を理解し、保健・医療・福祉システムの実際を学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 制度が成立するまでの社会的背景を理解する。</li> <li>2. 社会保障制度の概要を理解し、どのような補償内容があるのか説明できる。</li> <li>3. 我が国の医療保険制度と保険診療のしくみについて理解する。</li> <li>4. 年金制度のしくみを理解する</li> <li>5. 国の難病対策（医療費助成、法律）について理解する。</li> </ol>						
思考 判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障制度やそれを担う体制を知ることで、臨床現場で必要とされる多職種連携と関係づけられる。</li> <li>2. 医療保険制度を理解し、グループワークすることでそれぞれの仕組みについて具体的に図示できる。</li> <li>3. 難病対策の意義・目的を理解し、医療費助成制度や難病法を事例を使って紹介できる。</li> </ol>						
主体的学習 態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループワークで積極的に自己の考えを述べることができる。</li> <li>2. 新聞、テレビ等で報道されている内容について関心を持ち、情報収集ができる。</li> <li>3. 社会保障の講義資料を活用できる。</li> </ol>						
科目評価	定期試験（筆記） 60%      グループワーク40%      合計100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 （メディカ出版）						
参考文献	系統看護学講座 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令 （医学書院）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	社会保障制度の体系と歴史	○			柴口里則	公衆衛生	社会保障 I の資料を持参すること
2		○				各専門看護学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険の種類(種類の違いについて、自身、家族の保険がどれに該当するか)を調べてグループワークと発表</li> <li>・身近な事例を用いて講義</li> </ul>
3		○					
4	医療保険制度(国民健康保険、健康保険、協会けんぽ、共済組合)の種類と給付の仕組み 高額医療費制度	○				高年齢者看護へようこそ 在宅看護総論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・厚生労働省のホームページで関連政策を調べておく</li> <li>・看護師が主に働く職場の医療保険について調べておく</li> </ul>
5		○					
6	難病対策	○					
7		○					
8	所得保障 雇用保険 労災保険	○					
9		○					
10	年金制度・生活保護制度	○					
11		○					
12		○					
13	高齢者医療制度	○					
14		○					
15	まとめ	○					

健康支援と社会保障制度

専門基礎分野

授業科目	健康教育	講師	氏名	①幡本夏実 ②中島可織	開講年次	2年次 前期	単位・時間	1単位 30時間			
			所属	①訪問看護ステーション ②専任教員							
			実務試験	①臨床看護師・保健師 ②臨床看護師							
科目のねらい	人々の健康維持のために必要な保健、医療、福祉における各種機関の役割と連携について理解する。さらに健康教育の基本的な知識と教育指導技術を身に付ける。										
到達目標											
知識・技術	1. 様々な組織の間でのネットワーク、そして協働について理解し、述べることができる。 2. 健康とは何かについて理解し、自己の言葉で説明できる。 3. 各地域の保健所業務を見学し地域の現状を知ることができる。 4. 保健所業務について理解し、具体的に列挙できる。 5. 地域における救急医療体制の現状を知り、述べることができる。										
思考・判断・表現	1. 看護職者として必要な医療や看護に関連する社会のシステムを図示できる。 2. 看護師の業務を中心として、他の医療スタッフとの業務の関係性について把握したうえで多職種での連携のあり方についてグループ討議ができる。 3. 1～3次までの予防教育を知識を得、健康指導プランを実践できる。										
主体的学習態度	1. グループワークや討議に積極的に参加し、意見交換ができる。 2. 課題について自己で調べることができる。										
科目評価	定期試験（筆記）50% レポート及びワークの提出内容50% 合計100%										
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障（メディカ出版）										
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度④ 看護関係法令（医学書院） ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生（メディカ出版）										
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項				
		講義	演習	その他							
1	1. 健康教育とは	○			幡本夏実	ICTの基礎 情報科学 社会福祉 社会保障 公衆衛生 地域と暮らし 地域生活支援 各実習					
2	2. 1次、2次、3次予防とは	○									
3	3. 健診(乳幼児、特定、歯科健診)	○									
4	4. エイズ、肝炎、結核、性病、伝染病棟の置ける保健所業務における予防検診 予防接種法	○									
5	5. 職種と機関 1) 医師 2) 薬剤師 3) リハビリ 4) 管理栄養士 5) ソーシャルワーカー 6) 検査技師 7) 保健師 その他	○			中島可織		講義中にグループワークでそれぞれの職種の業務と役割について調べる。				
6	6. 保健所業務（母子、老人、歯科、精神保健センター）と役割	○					各自の居住地域にある保健所を見学し保健所業務を見学し実際を知る。				
7	7. 保健所業務をまとめ、他の施設との関連を図示して発表		○	○			ICTの基礎 情報科学 社会福祉 社会保障 公衆衛生 地域と暮らし 地域生活支援 各実習	それぞれの役割と業務をまとめ、互いに情報共有する。			
8			○	○							
9	8. 救急医療サービス 1) 救急医療体制の歴史と各段階を知る 2) 救命救急センターの現状 3) 医療圏とは	○	○					中島可織	身近な体験を使ってそれぞれ1・2・3次予防教育プランを作成		
10		○	○								
11	9. 健康予防的視点を使ってシミュレーション(1次・2次・3次予防教育の実践プラン作成)	○							中島可織	それぞれの役割となり、シミュレーションする。	
12			○								
13	10. 教育指導場面のシミュレーション		○							中島可織	
14			○								
15		11. まとめ	○								

健康支援と社会保障制度

専門基礎分野

授業科目	公衆衛生	講師	氏名	吉田 壽一	開講年次	単位・時間	
			所属				
			実務経験	非常勤講師			
科目のねらい	公衆衛生の意義や歴史や人間の病気、死因の変遷等を統計資料を基に学習し、健康、疾病の予防、環境保全、保健活動を諸法や制度、施策及び行政との関連について学ぶ。						
到達目標							
知識・技術	1. 公衆衛生全般の制度および政策について理解し述べることができる。 2. 環境と健康との関連を理解し、説明できる。 3. 人口問題について説明できる。 4. 健康問題・疾病の予防と保健活動について理解し、述べることができる。						
思考判断・表現	1. 現代の健康問題を把握し、その解決策について考えることができる。 2. 環境と疾病との関わりを統計学的なデータを使って調べることができる。 3. SDG sについて事前に学習し、意見できる。						
主体的学習態度	1. 主体的に学習し講義に参加することができる。 2. 日本の環境問題や疾病問題について興味関心を持ち、探求できる。						
科目評価	定期試験（筆記） 100%						
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障② 公衆衛生（メディカ出版）						
参考文献	新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学（メヂカルフレンド社）						
回数	教育内容	教育方法			講師	関連科目	留意事項
		講義	演習	その他			
1	公衆衛生とは何か	○			吉田 壽一	各専門看護学 社会福祉 地域生活支援 社会保障 健康教育 国際看護	SDG s について調べ講義に臨む
2	世界の公衆衛生の歴史	○					
3	公衆衛生の発展	○					
4	プライマリヘルスケア ヘルスプロモーション	○					
5	疾患の発生状況 有病率、罹患率	○					
6	健康状態や医療水準 平均寿命、平均余命	○					
7	健康寿命・死亡率、死因 人口問題と人口動態統計 原因と疫学的因果関係と対策	○					
8	産業保健 感染対策	○					
9	地球環境	○					
10	日本の環境保全 住環境	○					
11	食品管理 家庭用品の安全対策	○					
12	ごみ・廃棄物問題 公害	○					
13	国と地方自治体の役割 ・保健所	○					
14	・市町村保健センター 専門職の働き	○					
15	まとめ	○					